

モーほっとけない！

Hayama

発行：平成22年4月25日
ごみ問題から葉山を救う会 通信Vol.7
代表 岩崎正巳 メール hayama_gomi@live.jp
ブログ <http://ameblo.jp/hayama-gomi>



ごみ処理広域化を望む請願が不採択

昨年6月に私たちが提出した「ごみ処理広域化を葉山町として直ちに実施することを求める請願書」が不採択になりました。

○採択とした議員（8人）

自治体のごみ処理責任の重さを理解し、県下一高額な葉山町のごみ処理費用の早期解決に向けて取り組んでいる議員の皆さんです。

●不採択とした議員（9人）

7,817名もの署名者の願いを否定した議員の皆さんです。ごみ処理費用の削減が緊急課題であると認識しながら、損害賠償請求訴訟に不利だからとの理由で反対に回り、ごみ問題の解決を先送りしてしまいました。

	伊東	笠原	加藤	佐野	鈴木(知)	中村	金崎	待寺	山梨	土佐	伊藤(友)	鈴木(道)	守屋	畑中	近藤	阿部	森
請願	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
広域化 アンケート	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	反対	反対	反対	反対

※○印は採択、×印は不採択。 昨年11月、ごみ問題から葉山を救う会が全議員にごみ問題についてのアンケートを実施しました。

伊東圭介議員・待寺真司議員 両請願紹介議員から次の賛成討論がされました。

- 町のごみ処理費は県下で一番高い。平成19年度一般会計決算の12.7%を占めている。町財政を圧迫しており、教育、福祉などの予算がますます減っている。
- ゼロ・ウェイスト政策だけでは、ごみ問題を解決することはできない。
- 小規模自治体の葉山では財政、環境の面から単独では無理。近隣自治体との広域化によるゴミ処理しかない。
- “2市と和解して”という言葉が裁判に影響するから心配と、8カ月も審議継続してきた。が、先般の公判時、弁護士から決着は来年2月頃といわれ、そうすると、これからさらに1年近くも何もせず待たなくてはならない。
- 平成22年度も、ごみ処理費は最大の問題。このままでは先の見通しも立たない。一日も早く現状から脱却する必要がある、この無駄で無意味な裁判を終結すべき。
- もとはといえば、この裁判は森町長が横須賀、三浦両市の市長に広域化協議会からの離脱について、誠意をもってきちんと説明しなかったことが原因である信義則違反の裁判。
- 2市とはごみだけでなく、防災、医療、福祉などで協力関係を維持していかななくてはならない。
- この請願は、7,817名の署名つき請願であることも重く受け止めなくてはならない。
- 裁判に当たっては、議会の良識を示すべきである。議会が森町長に加担し、町全体が非常識だとの批判にさらされるようなことは決してあってはならない。議会は別の姿勢を取るべき。
- 金崎議員の先の一般質問に対し、森町長は“他の自治体との共同ごみ処理も選択肢の一つ”と答えている。本請願書の願意もそこにある。
- 森町長は、自分が起こした前例のない自治体間の訴訟について、勝ち負けにこだわるのでなく、損害賠償を伴わない解決に向けて努力すべき。
- 勝ち負けにこだわらず、2市との間に将来禍根を残し、町民が結局は損をするということは絶対あってはならない。
- 2市も対立を望んでいない。

(3月24日 本会議での討論から)

広域処理と単独処理との比較の説明を求める陳情書が採択される

私たちの仲間が一昨年11月に町議会に提出した「2市1町ごみ処理広域化と自区内処理の事業計画との比較を早急に町民に説明することを求める陳情書」が、1年以上経ったこの3月、ようやく町議会で採択されました。これで、広域処理と単独処理のどちらがいいか、私たち町民が判断するための大変重要な材料を得る道が開けました。なお、一昨年の4月17日開催の町議会ごみ問題特別委員会に「葉山町におけるごみ処理検討資料」が提出されましたが、この中で広域処理の方が葉山町にとって得策であることを環境課が明言しています。(町の説明責任を求め、伊東、笠原、加藤、佐野、鈴木(知)、中村、金崎、待寺、山梨、土佐の10名の議員が賛成し、採択)

「ごみ処理広域化を葉山町として直ちに実施することを求める請願書」の要旨

ゼロ・ウェイスト政策は、ごみ処理施設の整備を避けた単なるごみ減量計画に過ぎず、現在の非効率・高コスト・不安定のごみ処理を解決できる政策ではない。小規模自治体の葉山町が、町単独でごみ処理施設を建設した場合、国からの助成金(建設費の3分の1)が受けられないので、近隣自治体との共同による広域処理が財政・環境・技術の面から最善である。これまでの経緯もあるので横須賀・三浦両市とまず和解し、広域処理の実現に取り組むべきである。

損害賠償請求訴訟

ごみ処理広域化協議会からの離脱を森町長が申し入れたことに対して、昨年1月、横須賀・三浦両市から合計1億4,800万円の損害賠償請求訴訟を起こされています。

県下でダントツに高い葉山町のごみ処理費

日本中を駆け巡っている
葉山のごみ！
環境問題、道義的責任は？！



平成21年11月16日ごみ問題特別委員会提出資料より

①老朽化（築34年）したごみ焼却処理施設

- 過去から将来も続く、年間1億円を超す修繕補修費
- ごみ処理費（年間9億円）全体の4割を超す焼却事業費

②遠方の民間業者への処理委託

- 手狭で分別が不十分なために高額になるごみ処理委託費
- 保管できず少量を頻繁に引き取らせる、非効率で高額な委託費
- 青森、群馬、千葉、茨城、三重など遠距離輸送費をかけ、排気ガスをまき散らす外部委託

(葉山町の焼却委託費43,575円/tに対し、三浦市の横浜市への委託費は13,000円/t)